



箕面小だより



箕面市立
箕面小学校
令和5年(2023年)
7月号

学校教育目標
めざす子ども像
めざす学校像

支え合い、ともに伸びゆく箕面小っ子

ともに考える子(知)、ともに高め合う子(情)、ともにやりぬく子(意)

○あいさつと笑顔であふれる学校

○思いやりと優しさが感じられる学校

○高学年が在校生の「あこがれ」の存在となる学校

○保護者・地域とともにあゆみ、信頼される学校

考え続けること

校長 垣内 幸太

夏休みまで残すところ3週間、学期のまとめの時期を迎えました。各教室を回っていると穏やかな空気感の中から、微笑ましい笑い声が聞こえてきます。給食の時間には仲間と談笑しながら楽しく食事をする姿をみることができます。当たり前前の平和な日常を目にすると幸せな気持ちになります。

毎年、6月8日になると必ず訪れる場所があります。それはお隣の池田市にある大阪教育大学附属池田小学校です。22年前の6月8日、校内に侵入した男に、8人の子どもたちの尊い命が奪われるという、あってはならない痛ましい事件が起きました。

この事件の数年後、私はこの小学校に勤めることになりました。そこでは、子どもたちの安全・安心を守るために、私たちは何ができるのか、何度も何度も考える機会がありました。何度も何度も繰り返し対応訓練をおこないました。職員はいつも真剣です。時には議論が伯仲し過ぎて言い合いになったり、訓練で怪我をしてしまったりすることもあったぐらいです。そこには救えなかった命への悔やんでも悔やみきれない思いがあったからです。しかし、何年たっても、これで大丈夫という確固たる答え、自信は持てませんでした。唯一、自分の中で出せた答えは「考え続けること」でした。私にとって、毎年この日は、そのことを再確認させてもらえる日となっています。

昨年度の話になりますが、本校の体育館前で、心肺停止状態で倒れられた方がいました。子どもたちの知らせで駆け付けた本校職員と居合わせた保護者の方が、心肺蘇生などの処置を適切に行い、一命をとりとめたということがありました。救急隊の方からは、「この処置がなかったらどうなっていたかわからなかった」とも言われました。きっとこの時の対応も、何も知らなければできなかったことです。何度も講習会を開き、いざいというときにどうすればいいか考え続けていたから命を救うことができたのでしょう。

本校では、これからも「多分大丈夫」ではなく「何かが起こるかもしれない」と常に物事を捉え、思いを馳せ、子どもたちの安全・安心を守る方法を考え続けてまいりたいと思います。その一つとして、名札の着用、いざというときに走ることでできる上履きの使用。全教職員に徹底しています。また保護者を始め、来校者の方にも、失礼ながら名札をしていない方にはお声をかけさせてもらっています。小さなことかもしれませんが、保護者の方々、地域の方々のお力もお借りしながら、できることを考え続けていきたいと思っています。今後ともご協力をよろしくお願いいたします。